



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療  
先進医療の推進  
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 岡野 友宏  
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二  
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1  
TEL 03-3787-1151(代表)

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

## 岡野病院長、佐野副病院長の退職にあたって

### 副病院長(教育担当) 井上 美津子

平成25年3月をもって岡野病院長と佐野副病院長が定年退職となります。

岡野先生は、昭和62年に昭和大学に赴任、歯科放射線学教室の教授となられ、平成19年から歯科病院長となって3年任期を2期務められました。佐野先生は、都立豊島病院と荏原病院の歯科で長い間第一線の臨床をやってこられました。平成21年に昭和大学に赴任、地域連携歯科を立ち上げ、平成22年から診療担当の副病院長になりました。私も平成21年より歯学部の教育委員長に任じられて、平成22年に教育担当の副病院長になりました。

岡野病院長、佐野・井上副病院長体制で過ごした3年間で最も大きい出来事は、なんといっても平成23年3月11日の東日本大震災でしょう。3月11日の午後、まだ診療や手術が行われている中で、歯科病院に大きな揺れが起こりました。外来での器物の破損などはあっても、診療部門での大きな棚の転倒などもなく、患者さんの誘導も比較的スムーズにできたように思われます。ただ、4階から車椅子の患者さんを階段で移動したり、2階の病棟の手術直後の患者さんを1階に移動することは、患者さんにとっても我々にとっても大変なことでした。この経験から、障害のある方の診療はやはり1階が望ましいということで、障害者歯科が4階から1階に降りて「スペシャルニーズ歯科」として新たに発足した大きなきっかけになりました。また、7月に歯科病院で行われた平成23年度昭和大学公開講座では、岡野病院長が「どうして放射線被曝が危険なのか?」、佐野副病院長が「歯無しにならない話」というタイトルで、近

隣住民の方々に放射線被曝の考え方や歯の大切さなどを話され、講演後も活発な質疑がなされました。

もう一つの大きな出来事は、電子カルテの導入です。かねてより準備はされて

きていましたが、平成23年度に本格導入が決まり、震災でやや遅れはでたものの平成24年1月から実施の運びとなりました。新年明けすぐにスタートしましたが、再来の受付がスムーズになり朝の待合室の混雑が解消されました。秋には病棟カルテも電子化され、まだ細かい部分の調整は続いています。平成25年6月からはPACS(医用画像保管電送システム)の導入も決まり、エックス線写真を含む画像も電子化されます。診療記録と画像が一元化されることにより診療の効率化につながるのと同時に、患者さんの待ち時間の短縮やカルテ運搬の手間の解消などにつながることで、患者側、診療者側双方にとってよりよい運用が図られることが期待されます。

4月からは、榎病院長、馬場・飯島副病院長の新体制になりますが、「地域とつながり患者さんにやさしい歯科病院」の方向性は変わらないものと思います。今後とも昭和大学歯科病院をよろしく願っています。





今年の冬は殊のほか寒かったのですが、桜は足早にやってきました。皆様には気候の急変に体調を崩されている方も多いのではないかとお察し申し上げます。

さて、私はこの3月をもって病院長を退任いたします。これまで皆様からお寄せ頂いたご厚誼に対して深く感謝申し上げます。大学歯学部附属病院として本院は先進医療の推進と将来を担う若い歯科医師の養成を大きな使命としています。この使命を達成するためには患者さんのご協力が不可欠です。幸いにして外来の患者さんの数は増加傾向にあり、ご理解が得られつつあるものと推察します。一方で、せっかく来院されても、様々な理由でご満足が得られないこともあり、改善すべき点の多いことを承知しております。患者さんとのコミュニケーションを大切にすること、そのうえで診療の質を担保できるシステムを構築することが大切です。

昭和大学歯科病院は患者さんの立場に立った診療を充実させていきますので、今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。

なお、私はこの3月中旬、インドネシアの西ジャワ・バンドン市で開催された歯科放射線学の国内学会に参加し、歯科における放射線画像診断と適正活用について講演してきました。インドネシアは他の東南アジアの諸国と同様に、急激に経済状況が向上しています。一方で医療のための基盤整備、医療教育体制や学生の質の保証などでは、まだまだ出遅れています。歯科医療の供給体

制も国民全体に公平に行きわたらせるまでには至っていません。これは社会全体の問題ではありますので、医療や福祉がどのくらいの優先度かは知りませんが、国が豊かになれば徐々に改善されることでしょう。現時点では私が訪ねた二つの大学歯学部病院ともに、シンガポールや香港との差は歴然としています。

今後、日本の果たす役割は大きいと思います。経済支援はもとよりですが、医療の体制整備という目的を絞った支援が是非とも必要です。私たちができることは当地に赴いての指導とともに、若手の歯科医師を受け入れて教育することでしょう。私がこれまで訪問したインドもそうですが、この両国は本質的に日本との友好関係が深い国々です。日本に期待することが大きいだけに、それにこたえる努力が大切だと思いました。これは次の世代にお願いすることでもあります。



第3回インドネシア歯顎顔面放射線学会(バンドン市Padjadjaran 大学)にて、最近の歯科放射線事情について、招聘講演をしました。



本年2月、Mahasaraswati大学(デンパサール市)の学長らが本学および歯科病院を訪問し、今後の歯学部間連携について話し合いました。今回はその大学歯学部も訪問し、学生に講義をしました。

ありがとうございました！

副病院長(診療担当・地域連携歯科 科長) 佐野 晴男



荏原病院から昭和  
和大歯科病院に移  
り、あっという間の4  
年間でした。地域  
連携歯科(当初は  
総合歯科)へのご

紹介は年を追うごとに増え、最近では毎月100人を下回ることがないほどです。城南7歯科医師会だけでなく、川崎、横浜からのご紹介も目立つようになってきました。短い間でしたが歯科医師人生の終盤に、皆様のお陰で得難い経験ができました。4月から、当科は丸岡靖史准教授、マイヤーズ三恵講師を中心に、今までと変わることなく、皆様からのご紹介をお受けいたします。今まで以上のご支援をお願い申し上げます。幸い私も客員教授の籍をいただきましたので、微力ながら科の発展に協力いたし

ます。また、前の職場である荏原病院歯科口腔外科でも、毎週火曜日に手伝っております。ご記憶ください。

歯科医師になって40年。東京医科歯科大学付属病院を皮切りに、数々の病院に勤めてまいりました。行く先々で人との出会いに恵まれ続け、歯科病院ではわずか4年で働き者集団を創ることが出来ました。見えない力によいほうに良いほうに導かれてきた自分を感じます。昭和大学歯科病院の学生や研修医、歯科医師達は皆、素直でまじめです。4月から病院長になられる榎教授、副病院長の飯島、馬場教授の強力な指導のもと、今まで以上に地域の皆様に喜んでいただける歯科病院になることを確信しています。短い間ではありましたが、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

昭和大学の思い出

スペシャルニーズ歯科センター センター長 向井 美恵



歯学部開設の翌年  
の昭和53年4月に歯  
学部小児歯科学教  
室に助手として赴任  
し、歯科病院で佐々  
教授の下で小児と障  
害児の臨床および教

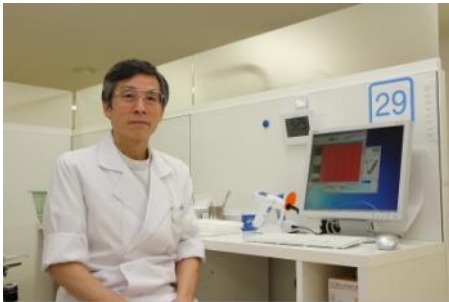
育と研究を11年間行ないました。平成元年には口腔衛生に移籍して合わせて34年間にわたり昭和大学で過ごしました。その間に医学部との連携で昭和大学口唇口蓋裂チームの立ち上げ、歯科病院の言語・摂食リハビリテーション診療室(後の口腔リハビリテーション科)への臨床参加、新教育カリキュラムの導入に伴う「社会と歯科医療コース」の新設、医歯薬保健医療の4学部連携教育、附属8病院の口腔ケアセンターの設立、などを経験することがで

きました。昭和大学だからこそその貴重な経験でした。特に平成20年に口腔ケアを通じて昭和大学に附属する各病院の患者のQOL向上とチーム医療の中核を担う医療人の育成を目的として「昭和大学口腔ケアセンター」が設置され、初代センター長として、多分野の医療職の皆様と一緒に運営できましたことには深く感謝しております。講座・診療科の再編に伴い特別な配慮が必要な患者さんのための診療センターであるスペシャルニーズ歯科センターのセンター長を任じられて1年を経過したところで定年となりました。歯科病院の皆さん本当にありがとうございました。昭和大学歯科病院の益々の発展を祈念しております。



## 退任のご挨拶

美容歯科 准教授 鈴木 敏光



平成25年3月末日をもちまして定年退職になります。昭和58年10月に第二歯科保存学教室に入

局し、30年あまりが過ぎようとしています。その間に講座名は保存修復学教室から、う蝕・歯内治療学教室へ、そして歯科保存学教室、美容歯科学教室へとくるくる変化してきました。しかし、一貫してう蝕治療の分野で教育、診療、研究とすべてにおいて大過なく務めることができましたのは、ひとえに歯科病院スタッフ皆様の支えのお陰であると心から感謝致しております。

最近の診療のメインはう蝕の数が激減しているということもあり、ただ削って詰めるだけのう蝕処置か

ら、お口の健康管理に移行してきています。お口の健康維持のためのう蝕処置では治療時期や治療方法、材料、形態など多くの事柄において、正しい知識をもって個々の患者さんに最も適した処置を正確に行っていく必要があると思います。これはう蝕処置に限らず、すべての診療においても通じることであると思います。これからも患者さんのお口の健康を長期間にわたって維持できる診療を実践し、昭和大学歯科病院が地域医療の核としてますます発展していくことを願っております。

最後に皆様のご健康と今後のご活躍を祈り申し上げますとともに、長い間本当にありがとうございました。

## 退任のご挨拶

看護部 看護師 岡本 純子



私は昭和58年4月に昭和大学歯科病院病棟に入職しました。ちょうどその年は歯学部第一回生が卒業

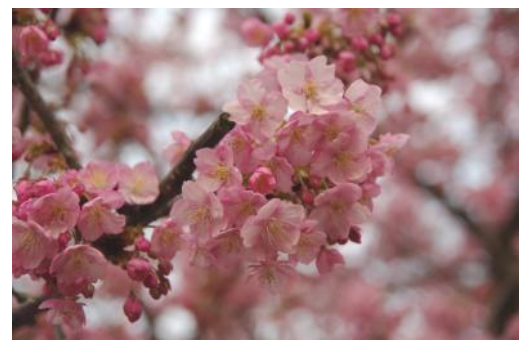
した年でした。多くの卒業生が口腔外科(当時は二講座ありました)に入局し、エネルギッシュな一回生の先生方(口腔リハビリテーション科の高橋教授もその一人でした)とともに仕事を覚えながら、充実した病棟業務をスタートすることができました。

一回生の先生方を含め口腔外科の先生方とスキー旅行に行ったり、花見をしたことも楽しい思い出として残っています。

昭和61年11月より平成6年3月まで育児に専念し、その後平成6年4月に歯科病院に戻ってまいり

ました。その時は同期の一回生の先生方が見事に成長した姿が印象深く、心から頼もしく思えました。

3月で退職致しますが、看護師人生のおよそ3分の2の23年間、歯科病院の病棟、口腔外科外来、オペ室に勤務し、手術法の進歩、看護の進歩など皆様の暖かいサポートを受けながら多くのことを学ばせて頂きました。口腔外科、歯科病院のますますのご発展をお祈り申し上げます。本当に長い間お世話になりました。



## 退任のご挨拶

歯科技工室 技工士長 山口 昌治



このたび3月末日で選択定年制により退職する事になりました。思えば私が歯科病院に就職したのは、歯科病院開設

の年1977年です。36年間本当にお世話になりました。初年度の技工士数6人(矯正科1人)からの始まりです。私は技工士学校出たばかりの新卒だったので胸を膨らませ必死に頑張ったのを思い出しま

す。開設以来35年間「中央技工室」の名称で内外に親しまれて来ましたが、平成24年度より「歯科技工室」と変更いたしました。また技工室も老朽化が進み昨年度末には念願の全面改装工事も行なわれました。みんな気持ちよく仕事をしています。技工も私が入った頃とは雲泥の差に進歩しています。現在技工士数17名ですが年々減少していきます。歯科技工室も厳しい時代が来ると考えられます。これからも歯科技工室をよろしく願いいたします。これからの歯科病院及び歯科技工室の発展をお祈りいたします。36年間有難うございました。

## 退任のご挨拶

技工士長補佐 百瀬 之男



昭和52年4月1日、5F矯正科のフロアで、唯一、机といすのあった一室で、初めて柴崎先生にお目にかかった。二人しかいない矯

正科だった。あれから、この3月末で36年がたつ。福原先生の面接を受け、昭和への赴任が決まった私としては、昭和の矯正科一員として就職したつもりであったが、実際は、中央技工室の所属だった。最初、自分のスタンスとしてどのようにこれから仕事をしていけば良いのか、とても悩んだ。結果、矯正科の医局員として認めてもらえるように頑張っていこうと、自分の心に決めた。幸いな事に、中央技工室の室長は、私の医科歯科時代の二年先輩の青嶋先生だった。室長は、私の医科歯科での5年を良く知っていてくれた。おかげで、私の考えも理解してくれたのだと思う。その後、退職されるまで優しく私を

見守ってくれた。

福原教授は、その年の7月に昭和に赴任された。私の今の矯正技工における土台は、先生のおかげで出来上がったものだと思う。先生なくして今の私はない。柴崎教授には、私が辛い思いをしていた40代、本当に助けていただいた。今の山口技工士長は、私の医科歯科の後輩だが、物の考え方は、私よりずっと大人だと思う。私の立場を良く理解してくれ、今では酒の席で、なんでも言い合える仲になっている。

現教授の榎先生には、紙面では、言い表せない程、感謝している。なぜなら、先生の尽力がなければ、9年前に、私は昭和を辞めていた。そして、今のように、後輩の小松さんへ、昭和の矯正技工を引き継ぐ事はできなかった。ほんとうに、ほんとうに、36年間、こんな未熟な私を支えてくれたまわりの人達に、感謝！！

## 退任のご挨拶

薬局 係長 白井 恵美子



平成25年3月31日に退職致します。長い間お世話になりました。私は昭和58年に昭和

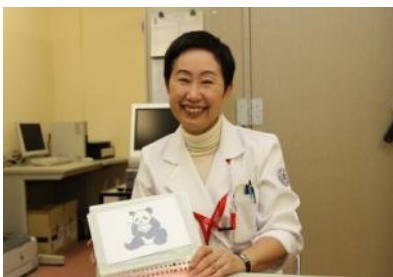
大学病院薬剤部に就職し、旗の台で20年間勤務いたしました。昭和大学病院では中央棟の立ち上げ、引っ越しに係わり多忙な日々を送った事も今では良い思い出です。その後、歯科病院に異動になり、約10年勤務させて頂きました。異動当初は、医科と歯科との違いに戸惑いましたが、今日まで勤務出来たのも皆様に

助けて頂いたおかげと感謝しております。

ここ最近では、薬学部6年制への移行に伴う薬学部5年生の病院実習の受け入れ、電子カルテの稼働と共に処方オーダーリングが始まりました。紆余曲折ありますが薬局の有能なメンバーや院内の皆様のおかげで良い方向に向かっていると思います。長い間、皆様にお世話になり心より御礼を申し上げます。全職員が職域の垣根を越え協力する事が出来る歯科病院だからこそ患者本位の医療を提供できると確信しております。これからの皆様方のご活躍とご多幸をお祈りいたします。

## 退任のご挨拶

言語聴覚療法室 係長 山下 夕香里



定年退職には1年早いのですが、平成25年3月末日をもって退職いたします。昭和54年、歯科病院の言語聴覚士として

入職いたしました。当時、歯科領域での言語治療はほとんど行われていない状況でしたので、第一口腔外科教室の道健一先生をはじめとする諸先生方のご指導のもと、口蓋裂患者さんの構音治療から始めました。平成16年からは口腔リハビリテーション科の高橋浩二先生のもと口腔がん患者さん

の構音障害や摂食嚥下障害、舌小帯短縮症患者さんの構音障害、機能的構音障害患者さんなど、33年間多くの臨床・研究に携わることができました。これも歯科病院の皆様のお陰と深く感謝致しております。

今後は、これまでの経験を生かして、帝京平成大学健康メディカル学部言語聴覚学科にて言語聴覚士の養成の仕事に携わります。歯科領域で仕事をしたいという優秀な学生を育てたいと思っております。

歯科病院の益々のご発展をお祈り申し上げます。長い間お世話になりありがとうございました。

## 編集後記

本号はご退職される皆様からご投稿頂きました。岡野病院長、佐野副病院長、向井口腔ケアセンター長はじめ歯科医師のみならず、歯科病院の医療を最前線で力強く支えて下さった多くの医療スタッフの方々のご退職となります。長年に渡り、ご尽力下さり本当に有難うございました。また佐野先生におかれましては客員教授として今後ともご指導賜りたくどうぞ宜しくお願い致します。

(K.T)